

会 報

No.62 (1999年2月)

目 次

- ◆第11回評議員選挙結果報告 1
- ◆第10期第3回評議員会報告 1
- ◆第21回総会報告 2
- ◆第22回(1999年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1) 5
- ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について 7
- ◆研究助成一覧 8
- ◆重ねて Genes to Cells へのご支援を 10
- ◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ 11
- 愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所公開シンポジウム'99
- 神奈川科学技術アカデミー平成10年度第Ⅳ期受講生募集
- 第14回日本生体磁気学会大会
- 脳と意識に関する Tokyo '99 国際会議
- 第3回マリンバイオテクノロジー学会大会
- 第50回タンパク質構造討論会
- 第11回蛋白質工学会年会
- 理化学研究所・脳科学総合研究センター サマースクール
- 第1回 ICSDT
- 第26回核酸化学シンポジウム

日 本 分 子 生 物 学 会
(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会 第11回 評議員選挙結果報告

選挙公示・投票用紙発送：1998年11月11日（水）

投票締切：1998年12月7日（月）

開票：1998年12月11日（金）

開票場所：かずさDNA研究所 W 304室

開票者：選挙管理委員（丹羽修身、岡崎孝映、島貫瑞樹）

開票結果：投票総数 2,780票

白票 416票

無効 96票

当選者（50音順）：池田日出男、石浜 明[°]、磯野克己、大塚栄子[°]、大坪栄一、小川智子、勝木元也、近藤寿人[°]、杉野明雄[°]、谷口維紹[°]、辻本賀英[°]、長田重一[°]、鍋島陽一、花岡文雄、本庶 佑、松原謙一[°]、柳田充弘[°]、山本 雅、山本正幸、吉川 寛[°]
（[°]印は第10期より連続して選出された方です）

◆日本分子生物学会 第10期 第3回評議員会報告

日時：1998年12月15日（火）15：30～19：00

場所：パシフィコ横浜 211+212会議室

出席者：大石道夫（会長）、岩渕雅樹、近藤寿人、榊 佳之、品川日出夫、杉野明雄（将来計画委員長）、中西重忠、松原謙一、三浦謹一郎、柳田充弘、丹羽修身（庶務幹事）、山本正幸（編集幹事）、花岡文雄（会計幹事）、勝木元也（集会幹事）、吉田光昭（第21回年会長）、西本毅治（第22回年会長）、小林英紀（第22回年会幹事）、内田久雄

欠席者：饗場弘二、石浜 明、大塚栄子、小川英行、谷口維紹、辻本賀英、長田重一、村松正実、吉川 寛

議事：

1. 第2回評議員会の議事録を確認した。

2. 報告事項

1) 庶務幹事より平成11年度科学研究費補助金（二段審査に関わるもの）の審査委員候補者として、第1段審査委員9名（継続分3名、新規6名）を学会から推薦したことが報告された。なお、第2段審査委員については日本生物物理学会との申し合わせにより、平成11、12年度については日本生物物理学会から推薦することになっている。

2) 選考委員長が欠席のため庶務幹事より各種学術賞、研究助成候補の推薦の状況について報告された。

3) 会計幹事より1997年度日本分子生物学会収支決算の報告が行われた。すでに、会計監査の検査により適正に予算の執行が行われたことが確認された。続いて、1998年度会計の中間報告がなされ、学会費収入が予算を上回っていることなど、支出も含め順調に執行されている旨紹介された。

4) 吉田光昭第21回年会長から、第21回年会の開催に当たっての基本的考え方についての説明があった。演題数が2,960題を超えること、参加人数は6,000人が見込まれ、年会の規模の拡大は予想通り進んでいることが紹介された。前回と同様に若い人の意見をなるべく取り入れ、シンポジウム・ワークショップの運営を世話人に任せた結果、講演時間などで、シンポジウム・ワークショップのスタイルと進行に差が出たが、これから生じる不便については受け入れていただきたいとされた。年会準備委員会として依頼していない世話人の中に学会非会員がいることがわかったが、参加を認めたとの報告がされたが、これについては当然、事後においても入会を求めべきであ

るという意見がでた。講演要旨集の CD-ROM 化については今回は採用しないこととなったが、その理由は経費、労力の節減のほか、会議運営委託会社間でのコンピュータソフト著作権移行の問題が挙げられた。

- 5) 小林英紀第22回年会幹事より、第22回年会は1999年12月7日から10日まで福岡ドームを主な会場として開催されること、ポスター発表は3,000題を見込み、これを半分にかけて2日間連続展示をする方針であること、シンポジウムについては分野の選定も進んでいること等が紹介された。総会は従来と異なり、夕方時間帯に行うこととした。これについて特に異論はなかった。また、西本毅治第22回年会会長より、英語による発表を奨めたい旨の考えが披露された。これについて何人かの評議員から意見が述べられた。
- 6) 第23回年会は、杉野明雄教授を年会会長として関西地区で2000年12月13日～16日の期間、神戸国際会議場で開催される予定であることが報告された。
- 7) 編集幹事より Genes to Cells の現状についての報告がなされた。特に重大な問題はないが、個人会員の購読キャンペーンの結果、約18%の増加をみたが、本年末の契約更新手続きを済ませたものは60%程度であり、残りの人については再確認を行っていることが紹介された。また、企業会員の増加はキャンペーンにもかかわらず、わずかであったと報告された。編集上の問題としては、発行日より印刷が遅れている事態は、来年始めには解消される方向であること、投稿数を増加させる努力が必要であることなどが報告された。
- 8) 内田久雄名誉会員より日本学術会議の分子生物学研究連絡委員会（研連）および生化学研連の最近の動向について紹介された。
- 9) 庶務幹事から次のような報告がされた。生物科学諸学会の連絡組織としての「生物科学・学会連合」が結成され、第1回の連絡会議が13学会の参加で5月8日に開催され、今後の運営に関する申合せ事項についての話し合いがもたれた。さらに、関係諸省庁に国家公務員採用試験I種「生物」試験区分の合格者採用についての要望をすることを決めた。
- 10) 第11回評議員選挙が無事終了し、第11期の評議員20名が選出されたとの報告が庶務幹事からされた。
- 11) 財団法人日本学会事務センターからの提案をうけて、会員数の増加に伴う入会事務の省力化と効率化の改善のために、インターネットを通じた入会手続きを採用することにした。また、年会の参加申込みについても同様の方策を考慮する必要があるとの考えが庶務幹事から紹介された。

3. 協議事項

- 1) 会計幹事より1999年度事業計画および予算案についての説明があり、異議なく了承された。年会補助金を増額するなど若干の変更がなされた。
- 2) IUBMB Congress 2006招致に関して、本学会として日本生化学会と協力していくことで、意見の一致をみた。具体的な協力については今後も協議を続けることとした。
- 3) 大石会長より富澤純一会員を、長年にわたる分子生物学に対する貢献および Genes to Cells の編集長として果たされた功績に感謝し、本学会名誉会員として推薦したい旨の提案があり異議なく認められた。

◆日本分子生物学会 第21回総会報告

日 時：1998年12月18日（金）11：30～12：15

場 所：パシフィコ横浜 メインホール

議事内容：

1. 大石会長が開会の挨拶を行い、総会議長として田矢洋一氏、野田哲生氏を選出した。
2. 議長より委任状を含めて400人以上の総会参加があり、総会が成立していることが報告された。

3. 大石会長より1998年度の学会活動の概要が報告された。会員数が1万人を超え、予想通りの伸びを示していることなどが紹介された。
4. 山本編集幹事より Genes to Cells の編集上の問題、および財政的な問題についての報告がなされた。個人購読の契約更新が順調でないと指摘された。
5. 丹羽庶務幹事より本会への入会手続きをインターネットを通じて行うように変更すること、第11期評議員が選挙の結果、無事選出されたことなどが報告された。
6. 花岡会計幹事より1997年度会計収支決算書が提出、説明され異議なく承認された。
7. 花岡会計幹事より1999年度事業計画および予算案が提案、説明され、異議なく承認された。
8. 評議員会の推薦を経て、大石会長より、富澤純一氏を本会名誉会員に推挙したい旨の提案があり、異議なく認められた。推薦理由として会長はわが国分子生物学の発展における富澤氏の顕著な功績および国際誌 Genes to Cells の編集長としての多大の貢献を挙げられた。引き続き名誉会員推戴式が執り行われ、富澤名誉会員による挨拶があった。
9. 吉田第21回年会長の挨拶があり、参加者が最終的には6,000名を越えることが見込まれるなど、年会は順調に運営されている旨の説明があった。
10. 西本第22回年会長の挨拶があり、1999年12月7日から10日まで福岡ドームを主会場として準備を進めているとの説明があった。
11. 杉野明雄教授より第23回年会を引き受けるとの挨拶があり、会場は神戸とするなどの報告がなされた。
12. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

1998年12月18日現在会員数

		前年総会・対比
名誉会員	2名	(± 0)
正会員	6,645名	(+ 680)
学生会員	3,516名	(+ 607)
外国在住会員	207名	(+ 13)
賛助会員	40社 (47口)	(+ 5)
合 計	10,410名	(+1305)

1999年度日本分子生物学会収支予算案

(1999年4月1日 ～ 2000年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	98年度予算額	99年度予算案	備 考
学 会 費	32,730,000	36,310,000	正会員会費 26,330,000円
賛 助 会 費	1,500,000	1,500,000	学生会員会費 9,180,000円
広 告 収 入	1,800,000	0	海外会員会費 600,000円
預 金 利 子	100,000	100,000	入会金 200,000円
雑 収 入	50,000	50,000	
収入小計	36,180,000	37,960,000	
前年度繰越金	※ 12,100,000	10,170,000	※97年度決算・繰越金概算とした
合 計	48,280,000	48,130,000	

支出の部

科 目	98年度予算額	99年度予算案	備 考
事 業 費	13,000,000	14,000,000	第23回年会補助300万円 プログラム・第22回年会分200万円 国内購読取りまとめ費用 講習会補助金他 会員増に伴う発送手数料増 会報、プログラム他
会報発行	3,000,000	3,000,000	
年会補助金	4,000,000	5,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
国際誌購読関係費	1,000,000	1,000,000	
その他	1,000,000	1,000,000	
評 議 委 員 会 費	5,000,000	1,000,000	
委員会費	1,000,000	1,000,000	
選挙・名簿作成費	4,000,000	0	
業 務 委 託 費	9,000,000	9,500,000	
一 般 事 務 費	10,110,000	10,100,000	
用品費	10,000	0	
印刷費	300,000	300,000	
通信費	9,000,000	8,900,000	
庶務事務費	650,000	650,000	
雑 費	150,000	250,000	
予 備 費	1,000,000	1,000,000	
支出小計	38,110,000	35,600,000	
次年度繰越金	10,170,000	12,530,000	
合 計	48,280,000	48,130,000	

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000円（定期預金）があります。

◆第22回（1999年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その1）

第22回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

1. 会 期：1999年12月7日(火)～10日(金)
総会：12月9日(木)
2. 会 場：福岡ドームおよびシーホークホテル&リゾート
(福岡市中央区地行浜2-2-3)
3. 内 容：

現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報（No. 63）でお知らせします。

- 1) 年会では、ポスターによる一般演題、ワークショップ(約30テーマ)、シンポジウム(12テーマ)、バイオテクノロジーセミナー、市民公開講演会等を計画しています。
- 2) ポスター発表の応募要領は次回会報（No. 63）に掲載します。応募の締切日は8月20日(金)の予定です。また、一般演題の中から一部を採用しワークショップで発表する方法を検討しています。
- 3) ワークショップのテーマを公募します。ワークショップについてのご提案がある会員の方は、「ワークショップテーマと概要（400字程度）、世話人と数名の演者の氏名と所属」を、1999年3月8日（月）までに、郵便かFAXで年会長宛に送付して下さい。シンポジウムとの関連、日程等を検討したのち採否を決めたく思いますので、採択されない場合もあることを予めご了承下さい。
- 4) 講演要旨集は印刷物として発行します。
- 5) 懇親会の代わりに福岡ドームでのミキサーを企画しています。

なお、年会開催についてのご意見、ご希望は、年会長宛にご連絡下さい。

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院医学系研究科
西本毅治（第22回年会長）
TEL(092) 642-6175、FAX(092) 642-6183
Email: tnishi@molbiol.med.kyushu-u.ac.jp

第22回日本分子生物学会年会 組織委員名簿

年会長

西本 毅治 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻

総務幹事

小林 英紀 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻

幹事

相沢 慎一 熊本大学医学部
遺伝発生医学研究施設
大島 靖美 九州大学理学部生物学科
桑野 信彦 九州大学医学部第一生化学
関水 和久 九州大学薬学部薬学科
林 健志 九州大学遺伝情報実験施設
平賀 壮太 熊本大学医学部
遺伝発生医学研究施設
藤木 幸夫 九州大学理学部生物学科
渡辺 武 九州大学生体防御医学研究所
感染防御学部門

委員

射場 厚 九州大学理学部生物学科
井本 泰治 九州大学大学院薬学研究科
医療薬学専攻
大久保博晶 熊本大学医学部
遺伝発生医学研究施設
大坪 素秋 久留米大学分子生命科学研究所
遺伝情報部門
康 東天 九州大学医学部臨床検査医学
久原 哲 九州大学大学院生物資源環境科学
研究科遺伝子資源工学専攻
河野 公俊 産業医科大学医学部分子生物学
小林 信之 長崎大学薬学部医療薬剤学
阪口 雅郎 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻
佐方 功幸 九州大学理学部生物学科

笹月 健彦 九州大学生体防御医学研究所
遺伝学部門

佐谷 秀行 熊本大学医学部腫瘍医学

城 圭一郎 佐賀医科大学医学部生化学

須田 年生 熊本大学医学部
遺伝発生医学研究施設

住本 英樹 九州大学大学院医学系研究科
分子病態学分野

関口 猛 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻

竹重公一朗 九州大学医学部第二生化学

谷 時雄 九州大学理学部生物学科

谷村 禎一 九州大学理学部生物学科

續 輝久 九州大学医学部放射線基礎医学

中別府雄作 九州大学生体防御医学研究所
生化学部門

中山 敬一 九州大学生体防御医学研究所
細胞学部門

中山 建男 宮崎医科大学第二生化学

新川 詔夫 長崎大学医学部
原爆後傷害医療研究施設

西谷 秀男 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻

服巻 保幸 九州大学遺伝情報実験施設

三木 健良 九州大学薬学部薬学科

水野 健作 九州大学理学部生物学科

三角 佳生 福岡大学医学部第二生化学

三原 勝芳 九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学系専攻

向井 常博 佐賀医科大学大学生化学

森 正敬 熊本大学医学部分子遺伝学

山崎 常行 九州大学理学部生物学科

山村 研一 熊本大学医学部
遺伝発生医学研究施設

吉村 昭彦 久留米大学分子生命科学研究所
遺伝情報部門

和田 守正 九州大学医学部第一生化学

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

4月に役員が替わりますが、3月末日までは下記に提出して下さい。4月以降の送り先については学会事務局にお問合せ下さい。

日本分子生物学会 選考委員長 饗場弘二

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻

FAX(052) 789-3001

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

◆研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第30回三菱財団 自然科学研究助成	(株)三菱財団 ☎(03) 3214-5754 〒100-0005 千代田区丸の内2-5-2	・総額3億円 30件程度	1999年 2月25日	1件当り2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的發展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究(原則として個 人研究)。
新化学発展協会 1999年度研究奨励 金	(株)新化学発展協会 ☎(03) 3294-8031 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5	8課題、 各課題1件	1999年 2月1日	1件 150万円	新化学の発展に資する若 手研究者(39歳以下)の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 1999年度研究援助	(株)山田科学振興財団 ☎(06) 6757-3311 〒544-8666 大阪市生野区巽西1-8-1	10件程度 (2件)	1999年 3月31日	1件当たり100~ 500万円、総額 4,000万円	自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。
日本生命財団研究 助成	(株)日本生命財団 ☎(06) 6204-4012 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル	総額 8,000万円程度	1999年* 5月12日	申請金額に制限 なし	「人間活動と環境保全と の調和に関する研究—自 然と人間の共生への新し い道を求めて—」の趣旨 に沿った研究のうち、「人 間活動と自然環境との関 係(人間と自然環境の共 存)」関連分野で、かつ 現在および将来の重要課 題。
ファルマシアバイ オテク分子生物学 若手研究者奨学金	ファルマシアバイオテク(株) バイオダイレクト事業部 ☎(03) 5331-9330 〒141-0021 品川区上大崎4-5-37 本多電機ビル (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE Room 1044, 1200 New York Avenue, NW Washington, DC 20005, USA	若干名	1999年* 5月31日	最優秀賞金 US\$ 20,000 その他の受賞者 US\$ 5,000	1995年より SCIENCE 誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biology を設 置。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03) 3263-1721 〒102-0083 千代田区麴町5-3-1 ヤマトビル 日本学術振興会内	1件 (1件)	1999年* 6月5日	賞状、賞牌 1,000万円	生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙げ 、世界の学術進歩に大き な貢献をした研究者 (昨年度、授賞分野は植 物科学)。
第17回研究助成 第16回国内および 海外留学補助金 第16回持田記念学 術賞	(株)持田記念医学薬学振興 財団 ☎(03) 3358-7211 〒160-8515 新宿区四谷1-7	・総額 4,200万円 ・総額 500万円 ・2件以内 (1件)	1999年* 6月30日 1999年* 6月30日 1999年* 7月31日	・1件 100万円 ・1件 50万円 ・1件 300万円	生命科学・薬物科学・情 報科学・生体工学と医療 応用の研究の分野におけ る研究で、顕著な功績が あり、かつ新進気鋭の研 究者。
第26回日産学術研 究助成	(株)日産科学振興財団 ☎(03) 3543-5597 〒104-0061 中央区銀座6-17-2	①一般研究 10件程度 (2件) ②奨励研究 25件程度 (枠なし)	1999年* 8月31日	①1,000万円まで ② 200万円まで	自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩、発展に貢献すると ころが大きいと思われる もの、新しい研究分野の 開拓に貢献するもので、 45歳以下の研究者および 研究グループ(奨励研究 は35歳以下)。
第7回日産科学賞		・2件 (1件)		・賞状、メダル 500万円	自然科学分野で、学術文 化の向上発展に大きな貢 献をした満50歳未満の研 究者。
笹川科学研究助成	(株)日本科学協会 ☎(03) 3502-1931 〒105-0001 港区虎ノ門1-11-2 第2船舶振興ビル	約380件	募集期間 1999年* 9月1日 ~ 10月31日	1件当り100万円ま で	人文科学、社会科学および 自然科学(医学を除く)、 または境界領域の研究計 画に関するもの。4月1 日現在、35歳以下の若手 研究者へ助成。
上 原 賞	(株)上原記念生命科学財団 ☎(03) 3985-3500 〒171-0033 豊島区高田3-25-3	2件以内 (1件)	1999年* 9月10日	金牌 1,000万円	生命科学の栄養学、薬学、 基礎および臨床医学、社 会医学で顕著な業績を挙 げ、引き続き活躍中の研 究者。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
井上 学術賞	(助)井上科学振興財団 ☎(03) 3477-2738 〒150-0033 渋谷区猿樂町11-20	5件以内 (1件)	1999年* 9月20日	1件賞状、メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績を挙げた者(ただし締切日現在満50歳未満)。
木原記念財団学術賞	(助)木原記念横浜生命科学振興財団 ☎(045) 825-3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1件 (1件)	1999年* 9月30日	賞状、記念牌 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として50歳以下の者。
東レ科学技術賞	(助)東レ科学振興会 ☎(047) 350-6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	1999年* 10月8日	1件 賞状、金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、重要な発明により効果が大きい者、技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	1999年* 10月8日	特に定めず最大 3,000万円まで	基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
第31回科学振興賞	(助)内藤記念科学振興財団 ☎(03) 3813-3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	1999年* 11月10日	正賞、金メダル 300万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
第31回海外学者招聘助成金		前後期各総額 500万円 (1件)	1999年* 7月10日 11月10日	1件 50万円まで	同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招へいする受入れ責任者に贈呈。
ブレインサイエンス財団研究助成		・ 8件 (1件)	1999年* 11月26日	・ 1件 80万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞	(助)ブレインサイエンス振興財団 ☎(03) 3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	・ 1件 (1件)		・ 1件 100万円	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは研究者の派遣を助成。
海外派遣研究助成		・ 総額 120万円 (1件)	2000年* 1月17日	・ 1件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
海外研究者招聘助成		・ 総額 80万円 (1件)		・ 1件 30万円まで	
研究助成	(助)長瀬科学技術振興財団 ☎(06) 6535-2117 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17	・ 10数件	1999年* 12月15日	・ 1件 250万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
国際交流助成		・ 10件程度	1999年* 12月15日	・ 1件 50万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。
第13回研究集会助成	(助)バルティス科学振興財団 ☎(0797) 74-2460 〒665-0042 宝塚市美幸町10-66	・ 約10件 (1件)	1999年* 6月30日	・ 1件 50万円	わが国で開催される生命科学(医学、薬学、農学、生物学、化学等)の領域における研究集会に対し、運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし、参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成の対象としない。
第9回海外学会出席助成		約15件 (1件)		・ 1件 20万円	海外で開催される生命科学の学会への出席に対し、旅費・滞在費の一部を助成。

() 内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合本学会よりの推進枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年締切日を参考に示してあります。

◆重ねて Genes to Cells へのご支援を

日本分子生物学会が支援する分子生物学の欧文誌 Genes to Cells は、1996年の発刊からちょうど3年が経過しました。日本分子生物学会員の皆様のこの間の多大なるご支援と、富澤編集長をはじめとする編集委員の尽力ならびに出版社の協力により、同誌は高い水準を保った月刊学術誌としての評価が定着してまいりました。本年度の Vol. 4, No. 1 から Online Publication を開始し、最初の4カ月は Free Subscription Service を行う予定になっています。すでに Genes to Cells の掲載論文は MEDLINE/MedPub に取り込まれていて、研究者のコンピュータサーチから漏れることもなく、また3カ年継続発行されたことにより今秋には Citation Index も公表される予定です。このように、Genes to Cells は国際一流誌に向けてその地歩を着実に固めつつあるといえるでしょう。

しかしまた、Genes to Cells が立っている基盤にはまだまだ脆弱な点が多いことも事実です。ここでは2点について日本分子生物学会員の皆様に現状報告し、重ねて Genes to Cells への暖かいご支援をお願いしたいと思います。第一のお願いは論文の投稿についてです。現在のところ Genes to Cells 誌の掲載論文の質はほぼ期待された水準にあると考えられますが、毎号あたりの平均の厚さ70ページ、論文数6は、同誌の扱う分野の多様性から考えて満足なものではありません。日本からの論文掲載が多い傾向も認められますが、これは、日本からの投稿論文は他国からの投稿論文に比べて今のところ採択率がかなり高いという状況を反映しています。このことはまた、Genes to Cells を質的に高いものにしようという日本分子生物学会員の強い意識の反映であるように思われます。しかし一方では、そうした意識が Genes to Cells には安易に投稿できないというような雰囲気をも日本分子生物学会員の間にかもしているのではないかと懸念もあります。投稿論文に対して審査が公正に行われることは大原則ですが、それとともに、Genes to Cells の編集委員達は投稿者に対して friendly であり、また志向するところが面白い論文であれば過度に細部にこだわらないという原則を守っています。投稿者の個別事情にも考慮を払い、機械的な審査で事足りるとするようなことはありません。わが国からの分子生物学誌の発刊を期待する声の中には、外国の雑誌の Editor と交渉して、意を尽くせないまま引き下がるを得なかったという多数の人の経験が教訓としてありました。もし論文の出版に関して何らかの個別事情をお持ちのときには、Editor あるいは Associate Editor の誰かにご相談のうえ、Genes to Cells を活用していただきたいと思います。どうかより多くの方々が気軽に Genes to Cells に投稿して下さるようお願いいたします。

もう一つのごお願いは購読の拡大です。ご承知のように、Genes to Cells は学会誌ではなく、出版社から一般誌の形で発行されています。この形式に到った経緯をここでは繰り返しません。出版社の事業である限り、一定数の購読があることは雑誌の存続に不可欠の要因です。編集委員と出版社は国外における購読を拡大すべく種々の努力を払っていますが、何といても最も大きな購読者層である日本分子生物学会の会員の積極的支援なしには雑誌の経営基盤が成り立ちません。一昨年の拡大キャンペーンによって会員の購読者が2割ほど増加し、一息つきましたが、昨年末の購読継続手続きをすっかり忘れられている方なども見受けられ、ぜひとも継続手続き、あるいは新規購読者の拡大、また海外への寄贈などで、1部でも多くの Genes to Cells が購読されますように、よろしくご協力をお願いいたします。日本分子生物学会員の購読・寄贈に関しましては、どのような用件でも以下の窓口で承っています。ご協力を重ねてお願い申し上げます。

購読・寄贈受付：(株)日本学会事務センター 事業部「Genes to Cells」係

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

TEL (03) 5814-5811、FAX (03) 5814-5822

平成11年1月

編集幹事 山本正幸

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所公開シンポジウム'99 「細胞接着研究の最先端—発生のしくみの解明をめざして」

日 時：1999年2月27日(土) 13:30~19:00
会 場：愛知芸術文化センター12階アートスペース A
(名古屋市中区東桜1)

主 催：愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所
参加費：無料
内 容：

1. 細胞—基質間接着の分子制御とその多様性
関口清俊(阪大・蛋白研)
2. 平滑筋細胞形質転換(分化・脱分化)の遺伝子発現制御(細胞骨格蛋白質と $\alpha 1$ インテグリン)
祖父江憲治(阪大・医)
3. 細胞間透過性と細胞極性を規定する新しい細胞接着分子群クロロディンファミリー
月田承一郎(京大・医)

4. カドヘリンスーパーファミリーとカドヘリンの細胞接着機構
鈴木信太郎(発達障害研)
5. 細胞内シグナルによる細胞間接着の制御機構
貝淵弘三(奈良先端大)
6. 細胞接着分子によるシナプスの制御
竹市雅俊(京大・理)

問合せ・パンフレット請求先：

〒480-0392 春日井市神屋町713-8
愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所・企画
TEL (0568) 88-0811 (内3503)、FAX (0568) 88-0829
E-mail: adv@inst-hsc.pref.aichi.jp (記録広報)
http://www.pref.aichi.jp/hsc/inst

○神奈川科学技術アカデミー平成10年度第Ⅳ期受講生募集 遺伝子操作基礎実験コース—バイオテクノロジーの基礎から応用まで—

従来の研究の幅を広げるために遺伝子操作の技術を導入しようとする人を対象に、実際に遺伝子のクローニングと培養細胞への遺伝子導入などを実習することにより、遺伝子操作の基本を修得し、各々の分野で実践できるようにすることをねらいとしています。

カリキュラム編成者：

半田 宏(東京工大・生命理工 教授/医学博士)

講義日：1999年3月8日(月)~13日(土)(計6日間)
(各コースともやむを得ない事情により、日程・内容等の変更をすることがあります)

主なカリキュラム内容：

〈実習〉

HeLa細胞からのRNAの調製/mRNAのcDNAへの変換反応/ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法による遺伝子増幅/増幅した遺伝子のプラスミドベクターへの組み込み/組み換えプラスミドの調製/遺伝子の制限酵素マップの作成/DNA塩基配列の解析/遺伝子の培養細胞への導入/導入遺伝子の発現の解析

〈トピックス〉

インターネットによる遺伝子情報の解析法

〈特別講義〉

レトロトランスポゾンにより明らかとなったクジラの起源/体の左右を決める遺伝子カスケード

募集人員：30名

受講料(消費税込)：

一般168,000円、KAST 法人賛助会員(事業所単位)
・神奈川県内中小企業134,400円(神奈川県内中小企業とは、本社または事業所が神奈川県内にあり、資本金が1億円以下または企業全体の従業員が300人以下である企業)

申込締切日：1999年1月25日(月)

(ただし、「問題解決型パソコン活用法コース」は1999年2月15日(月))

問合せ先・主な講義場所：

(財)神奈川科学技術アカデミー 教育部教育研修課
〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP 西棟 6階
TEL (044) 819-2033、FAX (044) 819-2026
E-mail: kast-ed@net.ksp.or.jp
http://home.ksp.or.jp/kast/

○第14回日本生体磁気学会大会

事務局では一般演題を募集します。会員以外で演題募集要項が必要な方は、下記までお問合せ下さい。

会 期：1999年5月22日(土)、23日(日)

会 場：岡崎国立共同研究機構 コンファレンスセンター
(愛知県岡崎市)

会 長：佐々木和夫(生理研 所長)

テーマ：生体磁気計測(脳磁界、心磁界、肺磁界)、計測装置、解析法、磁気刺激、磁場影響、機能的磁気共鳴画像

演題締切日：1999年3月10日(水)

論文締切日：1999年3月31日(水)(A4、2頁)

問合せ先：

〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷38

生理学研究所統合生理研究施設 かねおけよしき 金桶吉起

TEL (0564) 55-7766、FAX (0564) 52-7913

E-mail: biomag@nips.ac.jp

大会ホームページ：

http://www.nips.ac.jp/~kaneyo/

○脳と意識に関する Tokyo '99 国際会議 Toward a Science of Consciousness-Fundamental Approaches-Tokyo '99

会 期：1999年5月25日(火)~28日(金)
10:00~17:00

会 場：国連大学本部(渋谷区神宮前5)

主 催：Tokyo '99組織委員会、国連大学高等研究所、

アリゾナ大学意識科学センター、ラッドフォード大学脳情報科学研究センター、スコヴデ大学意識科学センター、ノートルダム清心女子大学情報理学研究所

内 容：

脳組織の如何なる機能ならびに素過程から意識が生じるか、認知科学、哲学、情報科学、物理学、生命科学などの観点による最新の研究成果をまとめる。特別講演、一般講演、ポスター発表の予定は次の通りです。

- 25日 哲学、倫理学からのアプローチ
- 26日 心理学、認知科学からのアプローチ
- 27日 物理学、情報科学からのアプローチ
- 28日 生物学、生命科学からのアプローチ

講演予定者：

武田 暁（東北学院大）、佐藤文隆（京大）、松本元（理研）、土屋 俊（千葉大）、荻阪直行（京大）、治部 眞里（ノートルダム清心女大）、B. Baars（Wright 研）、D. Chalmers（California 大 Santa Cruz

校）、S. Greenfield（Oxford 大）、G. Globus（California 大 Irvine 校）、S. Hameroff（Arizona 大）、A. Hobson（Harvard 大）、P. Hut（Princeton 高等研）、M. Lockwood（Oxford 大）、K. Pribram（Radford 大）、P. Pyllkanen（Skovde 大）、W. Seager（Toronto 大）、J. Tuszynski（Alberta 大）、G. Vitiello（Salerno 大）、P. Werbos（Nat. Sci. Found.）、他
定 員：300名（先着順）

参加費：

- 25,000円（1999年2月2日までの早期申込の場合）
- 30,000円（1999年2月3日以降の申込の場合）
- 10,000円（学生・院生）

連絡先：

〒700-8516 岡山市伊福町2-16-9
ノートルダム清心女子大学情報理学研究所内
Tokyo'99 組織委員会事務局
TEL (086) 255-5636、FAX (086) 255-5090
E-mail: tokyo99@zoushoku.narc.affrc.go.jp.
<http://www.ias.unu.edu/activities/tokyo99.htm>

○第3回マリンバイオテクノロジー学会大会（マリンバイオつくば'99）

会 期：1999年5月27日（木）、28日（金）
会 場：工業技術院筑波研究センター共用講堂
（つくば市東1-1-4）

主 催：マリンバイオテクノロジー学会

発表・参加申込要領の請求方法：

住所（〒）、氏名、所属、TEL、FAX、E-mailを明記のうえ、下記連絡先までお申込み下さい（FAXまたはE-mailをご利用下さい）。

発表申込締切日：1999年3月19日（金）FAX、郵送受付

発表要旨締切日：1999年4月19日（月）郵送必着

発表形式：一般講演口頭発表（質疑含み15分、OHP使用）、ポスター発表

参加登録料（発表要旨集代金）：

- （3月19日まで）会 員：一般 5,000円、学生3,000円
非会員：一般 9,000円、学生4,000円
- （3月20日以降）会 員：一般 7,000円、学生4,000円
非会員：一般10,000円、学生5,000円

懇親会：5月27日（木）18：00～20：00

（懇親会費：一般5,000円、学生3,000円）

特別講演：

ヤリイカの神経細胞から脳型コンピュータへ
松本 元（理研・脳科学総研セ・ブレインウェイグループ・ディレクター）

招待講演：

極限環境の微生物生態 関 文威（筑波大・院バイオシステム 科長、生物科学系 教授）
海産毒の化学構造と標的細胞での機能
橋 和夫（東大・院理 教授）

シンポジウム（5件を企画）：

1. 微生物群集解析とバイオテクノロジーの接点
2. 海洋微細藻類資源の探索とカルチャーコレクション
3. 海洋有用資源
4. マリンゲノム研究の新展開
5. 分子レベルでのバイオミネラル化の制御

一般講演/ポスター発表：

微生物、藻類、CO₂、魚介類、生理活性物質、支援システム等

連絡先：

〒305-8566 つくば市東1-1
工業技術院生命工学工業技術研究所微生物機能部
第3回マリンバイオテクノロジー学会大会
実行委員長 東原孝規
TEL (0298) 54-6063、FAX (0298) 54-6412、
E-mail: mbiot99@nibh.go.jp

大会ホームページ：

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsmb/mbio.html>

○第50回タンパク質構造討論会（蛋白合同年会）

会 期：1999年6月15日（火）～17日（木）
（昨年より約3ヵ月早いのでご注意ください）

会 場：神奈川県民ホール（横浜市中区山下町3-1）

共 催：日本化学会、日本薬学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本農芸化学会、日本生物物理学会、日本蛋白工学会（予定）

発表申込締切日：4月16日（金）

予稿原稿締切日：5月14日（金）

参加登録予約申込締切日：5月31日（月）

（プログラムは4月下旬にホームページに掲載予定）

討論主題：

タンパク質の構造・物性と生物学的機能および分子

進化

発表形式：

発表20分、討論10分の講演約15～20件に絞りますが、不採択でもポスターとして発表できます。昨年に引き続き、第11回日本蛋白工学会年会と連携して開催されます（「蛋白合同年会」と総称）。したがって、ポスター、シンポジウム、ワークショップ（予定）も並行して開かれます。タンパク質科学の更なる発展のために奮ってご参加下さい。最初からポスターによる発表をご希望の方は日本蛋白工学会年会側から申込して下さい。

発表申込方法：

1. 発表者（講演者に○）、所属、連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）、講演題目、要旨（約1,200字；特に討論の対象となる点）を郵便、あるいはFAXで下記までお送り下さい。発表者、所属、演題には英文を付記して下さい。
2. 不採択の場合にポスターとしての発表を希望するか否かを明記して下さい。
3. 講演またはポスターの予稿原稿（A4で講演は4枚、ポスターは1枚）の形式については、該当者に直接連絡します。

予約参加費：一般3,000円（当日4,000円）
学生1,500円（当日2,000円）

予稿集：3,000円

懇親会：6月16日（水）18：00～

（ホテルニューグランド）

会費；一般6,000円（当日7,000円）

学生3,000円（当日4,000円）

○第11回蛋白工学会年会（蛋白合同年会）

会期：1999年6月15日（火）～17日（木）

（昨年より約3ヵ月早いのでご注意ください）

会場：神奈川県民ホール（横浜市中区山下町3-1）

発表申込締切日：4月16日（金）

予稿原稿締切日：5月14日（金）

参加登録予約申込締切日：5月31日（月）

（プログラムは4月下旬にホームページに掲載予定）

発表形式：

1. 今回は、一般発表はポスターのみとします。しかし、昨年に引き続き、第50回タンパク質構造討論会と連携して開催します（「蛋白合同年会」と総称）ので討論会側の講演も同一会場で行われます。わが国におけるタンパク質科学の更なる発展のために奮ってご参加下さい。
2. シンポジウムとワークショップも予定しています
発表申込方法：
 1. 発表者（講演者に○）、所属、連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）、講演題目、要旨（約200字）をこの順で記し、E-mail（テキスト形式、添付文書は不可）でお送り下さい。発表者、所属、演題には英文を付記のこと。やむをえない場合は郵便、あるいはFAXで下記までお送り下さい。
 2. 講演またはポスターの予稿原稿（A4で1枚）の形式については、該当者に直接連絡します。今年度もProtein Engineering誌への掲載は行いません。
予約参加費：一般3,000円（当日4,000円）

○理化学研究所・脳科学総合研究センターサマースクール

理化学研究所・脳科学総合研究センターでは、神経科学に関心のある大学院生を主な対象として、サマースクールを開校します。コースは2種類です。

Plan A：7～9月の約2ヵ月間、脳科学総合研究センターの各研究室に滞在し、研究を実体験するコース

Plan B：国内外から招いた優れた研究者による2週間の短期集中講義のコース
（講義は英語）

参加登録予約申込方法：

個人単位で銀行振込（横浜銀行和田町支店（店番号334）、（普）1355267、口座名：蛋白合同年会（横浜99））のうえ、氏名、所属、住所、TEL・FAX、一般・学生の別、参加登録・予稿集・懇親会の費目、振込金額、振込日を記してE-mailでお申込み下さい。ただし、E-mailを使えない場合は郵便も受け付けます。

発表申込および参加登録の詳細は下記のホームページを参照して下さい。インターネットを利用できない場合は、詳細な申込方法を送付しますので、E-mail、郵便またはFAXにてご請求下さい。

申込先：

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
横浜国立大学工学部物質工学科 阿久津秀雄
TEL (045) 339-4232（阿久津）、339-4231（小澤）
FAX (045) 339-4251
E-mail: protein@bio.bsk.ynu.ac.jp
<http://nymph.safetyeng.seg.ynu.ac.jp/~L-Akutsu/protein/main.html>

学生1,500円（当日2,000円）

予稿集：3,000円

懇親会：6月16日（水）18：00～

（ホテルニューグランド）

会費；一般6,000円（当日7,000円）

学生3,000円（当日4,000円）

参加登録予約申込方法：

個人単位で銀行振込（横浜銀行和田町支店（店番号334）、（普）1355267、口座名：蛋白合同年会（横浜99））のうえ、氏名、所属、住所、TEL、FAX、一般・学生の別、参加登録・予稿集・懇親会の費目、振込金額、振込日を記してE-mailでお申込み下さい。ただし、E-mailを使えない場合は郵便も受け付けます。

発表申込および参加登録の詳細は下記のホームページを参照して下さい。インターネットを利用できない場合は、詳細な申込方法を送付しますので、E-mail、郵便またはFAXにてご請求下さい。

申込先：

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
横浜国立大学工学部物質工学科 阿久津秀雄
TEL (045) 339-4232（阿久津）、339-4231（小澤）
FAX (045) 339-4251
E-mail: protein@bio.bsk.ynu.ac.jp
<http://nymph.safetyeng.seg.ynu.ac.jp/~L-Akutsu/protein/main.html>

1999年の募集を行っていますので、関心のある方は下記の理研ホームページをご覧ください。

連絡先：

〒351-0198 和光市広沢2-1
理化学研究所脳科学総合研究推進室サマープログラム事務局
<http://www.brain.riken.go.jp/summer/bsi-summer.html>

○第1回 ICSDT

名称: The First International Conference on Control and Diseases of Sodium Dependent Transport Proteins and Ion Channels

和名: 第1回ナトリウム依存性輸送蛋白質およびイオンチャネルの調節と疾病に関する国際会議

会期: 1999年8月24(火)~28日(土)

会場: 静岡県コンベンションアーツセンター (Gran Ship) (静岡市)

組織委員会: 御子柴克彦、岡田泰伸、祐田泰延、Carafoli, E., Lazdunski, M., Wright, E. M.

国内委員会: 乾賢一、岡田泰伸、川上潔、小島至、重川宗一、祐田泰延、谷口和弥、丸茂文昭、御子柴克彦

この分野の世界における著名な多数の研究者による特別講演、ワークショップ、また、一般発表としてポスターセッションが予定されております。関連分野の研究者、また関心をお持ちの方々の多数のご参加を希望しております。

1. 次の分野で一般演題を広く募集していますので、奮ってお申込み下さい。

1) Na⁺-Dependent Transporters

Na⁺/K⁺-ATPase, Na⁺/(K⁺)/C⁻-Cotransporter, Na⁺/Ca²⁺-Exchanger, Na⁺/H⁺-Exchanger, Na⁺/HCO₃⁻-Cotransporter, Na⁺/Pi Cotransporter, Na⁺/Sulfate Cotransporter, Na⁺/Glucose Cotransporter, Na⁺/Glutamate Cotransporter, Na⁺/Myo-inositol Cotransporter, Na⁺/Neurotransmitter Transporter, Na⁺/Nucleotide Transporter, Na⁺/Amino Acid Transporter, Na⁺/Bile Acid Cotransporter

2) Ion Channels and Related Receptors

Na⁺ Channel, Ligand-Gated Ion Channels, Voltage-

Operated Ca²⁺-Channel, ATP-Dependent K⁺-Channel, Cl⁻-Channel, Acetylcholine Receptor, Adrenergic Receptor, Serotonin Receptor, NMDA Receptor, Glutamate Receptor, Dopamine Receptor, GABA Receptor, Glycine Receptor, DOPA Receptor, and so on.

Related transporters, Ion channels and receptors such as CF-TR and so on in various organs of animals.

2. トピックとして次の細目が用意されていますので、奮ってご参加下さい。

- 1) Cellular and Molecular Basis of Function
- 2) Structure and Function
- 3) Gene Expression and Control
- 4) Cell Cycle and Control
- 5) Evolution and Apoptosis
- 6) Clinical Investigation
- 7) Drug Design
- 8) Physiology, Pharmacology and Toxicology
- 9) Enzymology and Endocrinology
- 10) Diseases and Mechanisms

(Hypertension, Diabetes Mellitus, Cystic fibrosis, and so on)

連絡先:

〒422-8002 静岡市谷田52-1

静岡県立大学薬学部

第1回 ICSDT 国際会議事務局 (高木、原田)

TEL(054) 264-5670、5671、FAX(054) 264-5672

E-mail: suketa@ys7.u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページ (1st ICDST 国際会議の最新情報):

<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~icsdt>

○第26回核酸化学シンポジウム

会期: 1999年11月10日(水)~12日(金)

会場: 前橋市千代田町2-5-1 前橋テルサ

共催: 日本分子生物学会、他

講演申込締切日: 4月30日(金)

講演要旨(英文)締切日: 6月10日(木)

参加登録予約申込締切日: 9月17日(金)

討論主題:

核酸および関連化合物の有機化学、物理化学、分析化学、生化学および分子生物学

発表形式:

口頭発表は1演題あたり発表15分質疑応答5分、この他にポスターセッション(全発表の1/2程度)を設けます。

発表申込方法:

申込みはE-mailでお願いします。なお原則として、一研究室あたり口頭およびポスターを含め2件以内に限りさせていただきます。

1) 希望主題、2) 発表形式(口頭またはポスター)、

3) 演題(英語および日本語)、4) 発表者の所属・氏名(講演者に○、英語および日本語)、5) 連絡先(住

所、TEL、FAX、E-mail)、6) 和文要旨(約200字)の順に記入し、nacs@chem.gunma-u.ac.jpまで送付下さい。E-mailがご使用になれない場合、A4判の用紙に上記の事項を記入の上、原稿をテキスト形式で保存したフロッピーディスクと、返信宛先および演題名を記入した返信用葉書を添えて、下記宛お申込み下さっても結構です。発表希望の分野その他の詳細は、ホームページをご覧ください。

参加登録費: 予約一般8,000円、予約学生5,000円(当日各2,000円増し)

懇親会: 11日(木)夕方開催予定。会費8,000円

申込・連絡先:

〒376-8515 桐生市天神町1-5-1

群馬大学工学部

沢井宏明、篠塚和夫、尾崎広明

TEL(0277) 30-1220 (沢井)

1222 (篠塚)、1223 (尾崎)、FAX(0277) 30-1224、

E-mail: nacs@chem.gunma-u.ac.jp

<http://www.chem.gunma-u.ac.jp/~NACS>

GENES TO CELLS オンライン購読のご案内

GENES TO CELLS 誌は3月1日(月)よりオンラインでも購読できるようになります。出版社と協議の結果、日本分子生物学会の会員はどなたも下記の特別割引料金でGENES TO CELLS 誌にオンラインアクセスできることとなりました。これは正規の個人オンライン購読料金の20%に満たない破格の料金ですので、ぜひこの際にオンライン購読の登録をお済ませ下さるようご案内いたします。購読ご希望のかたは同封の用紙にて(財)日本学会事務センター宛にお申込み下さい。この特別料金は(財)日本学会事務センターのみでの取扱いとなりますのでご注意ください。

利用期間：1999年3月1日より1999年12月31日まで

利用内容：GENES TO CELLS 第4巻全文へのアクセス

料 金：2,350円 (2,000円 プラス 付加価値税 17.5%)

第一次締切りを3月10日といたしますが、その後も随時受け付けます。

なお、サービスの内容を詳しく知りたい方のために、最初の4か月間は無料の試行期間が設けられています。以下のWebサイトで利用法をご確認下さい。

www.blackwell-science.com/gtc

オンライン購読のお申込み、お問合先：

(財)日本学会事務センター 事業部「Genes to Cells」係

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 / TEL (03) 5814-5811 / FAX (03) 5814-5822

日本分子生物学会 会報

年3回刊行

第62号 (1999年2月)

発 行：日本分子生物学会 庶務幹事

製 作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所